

感染防止徹底「受診を」



コロナ禍のがん治療への影響や対策について説明する下瀬院長（呉医療センター・中国がんセンターで）。

がん拠点病院

新型コロナウイルスの感染拡大が、がん治療にどんな影響を与えているのか。呉医療センター・中国がんセンターの下瀬省二院長（63）に、対策を含めて聞いた。
（聞き手・石田仁史）

呉医療センター・中国がんセンター

下瀬省二院長に聞く

——センターでも昨年の手術件数は前年から17件減っているが、理由は。
やはり患者の受診控えが大きいですね。昨年3月から減り始め、県内でも緊急事態宣言が発令された後の5月は、特に落ち込みまし

た。がんの治療には早期発見が重要ですが、受診の遅れによって胃がん、肺がん、子宮頸がん、かなり進行した状態で見つかったケースがありました。
——新型コロナウイルス患者も受け入れている。どんな対策

病院の 実力

*広島編 158

を講じているか。

受け入れ態勢は昨年4月から整えました。診療棟10階の、がん患者の緩和ケア病棟を「コロナ病棟」に切り替えたのです。緩和ケア病棟は10階の全フロアを充てており、すべて個室なので、コロナ感染者を隔離できます。重症患者にも対応しています。実際の受け入れは7月からでした。

一般診療、がん診療の入院患者には、38度以上の熱がある場合はPCR検査を受けてもらいます。手術予定者にも入院前に検査を受けてもらうなど、早期発見と感染防止に努めています。

——入院患者と家族の面会が禁止されている。
直接面会は昨春から控え、オンライン面会への支援を行っています。タブレット端末を10台用意し、昨年10月からは院内の1室を使って行えるようにしました。その部屋にいる家族と病室の患者が、端末を通じて顔を見ながら話せ

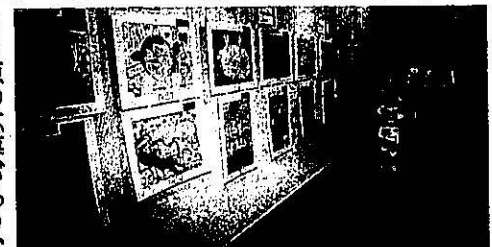
る仕組みです。

——コロナ禍において注意することは。
新型コロナウイルスは、変異ウイルスの流行で、また感染拡大の大きな波がくると予想されています。ただ、感染を恐れて受診を控える、早期発見が難しくなる。がんは、進行すると新型コロナウイルスにも増して重い疾患になります。感染拡大に影響されない診療態勢を整えているので、少しでも不安があれば医療機関で受診し、早期発見に努めてください。

想像力あふれる 世界児童画展

福山

「第51回世界児童画展」の県展（美育文化協会など主催、読売新聞福山支局後援）が24日、福山市西町のふくやま美術館で始まった。新型コロナウイルスの感染拡大が生活に影響する中で、子どもたちの想像力あふれる作品が集まった。国内外から計約7万40



子どもたちの感性豊かな作品が並んだ会場（福山市で）

00点の応募があり、海外を含む特別賞と県内の特選、入選など計347点を展示。消防車を描いた絵で特選に輝いた同市立神辺小1年松本ひなたさん（6）は家族で訪れ、自分の絵を見つけて「うれしい」と喜んだ。

同館学芸課の土井唯華主事は「コロナ禍でも、子どもたちは楽しい瞬間や変わらない日常を描いている。見ると力をもらえる」と話していた。
無料。8月1日まで、月曜休館。問い合わせは同館（084・932・2334）。